

100-270

問題文

腎移植を受けた患者が退院間近になり、病棟担当薬剤師が退院時服薬指導のために病室を訪問した。

患者から、「移植コーディネーターから、退院後の食生活で特にセントジョーンズワートや柑橘類、生魚などの摂取は控えるように言われているのですが、どのような理由なのでしょうか」との質問があった。なお、当該患者にはシクロスポリンが処方されている。

問270

上記の質問に対する薬剤師の回答として適切なのはどれか。2つ選べ。

1. セントジョーンズワートは、免疫抑制薬の働きを弱める恐れがあるからです。
2. セントジョーンズワートは、免疫抑制薬の血中濃度を高める恐れがあるからです。
3. 柑橘類の中には免疫抑制薬の働きを弱めてしまうものがあるからです。
4. 生魚の成分には免疫抑制薬の働きを強めてしまうものがあるからです。
5. 生魚に付着している微生物によって食中毒を起こす恐れがあるからです。

問271

シクロスポリンの経口投与時の体内動態および投与設計に関する記述のうち、正しいのはどれか。2つ選べ。

1. シクロスポリンの投与量は、腎移植後の日数に関わらず一定に保つことが推奨される。
2. シクロスポリンの投与設計は、一般にトラフ濃度に基づいて行われる。
3. シクロスポリンによる腎移植後の拒絶反応のコントロールが不良の場合は、シクロスポリンとタクロリムスの併用を行う。
4. 血清クレアチニン値の上昇が観察された場合は、シクロスポリンによる副作用の可能性があるので、直ちに休薬する必要がある。
5. 自己乳化型マイクロエマルション製剤投与後のシクロスポリンの消化管吸収は、胆汁分泌量や食事の影響を受けにくい。

解答

問270：1, 5 問271：2, 5

解説

問270

選択肢 1 は、正しい選択肢です。

セントジョーンズワートは CYP を誘導します。そのため血中濃度が下がり、免疫抑制剤の働きを弱める恐れがあります。

選択肢 2 ですが

血中濃度を下げる恐れがあります。高める恐れでは、ありません。よって、選択肢 2 は誤りです。

選択肢 3 ですが

柑橘類は、CYP を阻害するものがあります。そのため、血中濃度が上昇し、免疫抑制剤の働きを強める恐れがあります。働きを弱めてしまうからでは、ありません。よって、選択肢 3 は誤りです。

選択肢 4 ですが

免疫抑制剤を投与している時は、感染リスクが高まっているため生ものを食べるのを避けるように指導します。免疫抑制剤の働きを強めてしまうものがあるからではありません。よって、選択肢 4 は誤りです。

選択肢 5 は、正しい選択肢です。

以上より、正解は 1,5 です。

問271

選択肢 1 ですが

投与量は、漸減します。一定に保つことが推奨されるわけでは、ありません。よって、選択肢 1 は誤りです。

選択肢 2 は、正しい選択肢です。

選択肢 3 ですが

シクロスポリンとタクロリムスは、併用禁忌です。よって、選択肢 3 は誤りです。ちなみに、副作用のコントロール不良などに対して、シクロスポリンとタクロリムスの切り替えが行われることは、しばしば見られます。

選択肢 4 ですが

血清クレアチニン値の上昇は、シクロスポリンの副作用による腎機能の低下 や 拒絶反応による、腎機能の低下 を示唆します。そのため、免疫抑制剤の量が調節されます。（副作用なら、減量、拒絶反応なら、増量）直ちに休薬されるわけでは、ありません。よって、選択肢 4 は誤りです。

選択肢 5 は、正しい選択肢です。

以上より、正解は 2,5 です。